

授業科目名	教育社会学I
科目番号	CB25311
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木5,6
担当教員	徳永 智子
授業概要	教育社会学は、教育に関わる事象を社会現象としてみて、社会学の視点と方法で研究する学問である。教育社会学や関連領域の基本概念および理論を紹介しつつ、家族、学校、階層と教育、ノンフォーマル教育、教育問題、マイノリティと教育など、教育社会学が扱う幅広いテーマへの理解を深めていく。前半は、教育社会学の基礎を学び、後半はグローバリゼーションと教育のテーマを主に扱う。
備考	社会教育主事 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育学の基礎的体系的知識 教育学における総合的思考力 教育学に関する先導的発信力
授業の到達目標（学修成果）	教育社会学や関連領域の基本概念および理論を学び、様々な教育事象を社会的な観点から分析する力を身に着ける。実体験をもとに語られやすい教育について、実態をきちんと把握し、当たり前のもので見方を問い直すことで、教育と社会とのかかわりについて検討していく。
授業計画	<p>教育社会学や関連領域の基本概念および理論を紹介しつつ、家族、学校、階層と教育、ノンフォーマル教育、教育問題、マイノリティと教育など、教育社会学が扱う幅広いテーマへの理解を深めていく。前半は、教育社会学の基礎を学び、後半はグローバリゼーションと教育のテーマを主に扱う。事前に指定された文献を読み、授業に参加することを義務とする。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 教育社会学へのアプローチ 第3回 学校から職業への移行 第4回 教育格差と不平等 第5回 家庭と子育て 第6回 ジェンダーと教育 第7回 教育問題 第8回 学校と教師 第9回 マイノリティの排除と包摂 第10回 若者文化とメディア 第11回 教育のアクションリサーチ 第12回 エスノグラフィ 第13回 グローバリゼーションと教育 第14回 マジョリティと多文化教育 第15回 移民と教育：多文化化する日本 第16回 移民と教育：越境する子ども・若者 第17回 移民と教育：家族 第18回 移民と教育：学校 第19回 移民と教育：ノンフォーマル教育</p>

授業計画	第20回 まとめ
履修条件	
成績評価方法	毎回のコメントシート:20% 発表:20% レポート:60%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業前までに指定文献を精読し、ディスカッションの準備をするなど、十分な予習の時間が求められる。
教材・参考文献・配付資料等	教科書は以下を予定しています。 1. 相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子(2023)『これからの教育社会学 (y-knot)』有斐閣。 以下は、参考文献です: 1. 飯田浩之・岡本智周編,(2018)『教育社会学』ミネルヴァ書房 2. 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子,(2019)『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版 3. 中村高康・松岡亮二編,(2021)『現場で使える教育社会学:教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房 4. ダイアン・グッドマン著・出口真紀子監訳,(2017)『真のダイバーシティをめざして:特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』上智大学出版 5. 日本教育社会学会編,(2018)『教育社会学事典』丸善出版 6. 日本教育社会学会編,『教育社会学研究』東洋館出版社 7. 異文化間教育学会,『異文化間教育』国際文献社 その他、参考文献は授業中に指示する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	水曜11:30-13(事前のアポイントをとること) tomokot human.tsukuba.ac.jp(を at に)
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	本授業は、学生による発表やグループディスカッションを多く取り入れるので、学生の積極的な参加が求められる。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	社会化, 学校, カリキュラム, 教員, 教育格差, 学校文化, 生徒文化, 家族, ノンフォーマル教育, グローバリゼーション, 移民